

〔所定の科目を履修することで認定される資格〕

◎公益社団法人日本心理学会認定心理士(通称, 認定心理士)及び認定心理士(心理調査)

1. 「認定心理士」について

1) 資格の概要

認定心理士とは、心理学の専門家として仕事をするために必要な最小限の標準的基礎学力と技能を修得していると公益社団法人日本心理学会が認定した人のことである。心理学専攻者としてのアイデンティティを持ち、専門性の向上に資するために設けられている。

認定心理士を取得するためには、以下の「履修のガイドライン」に従って、所定の心理学関連科目を 36 単位以上履修し、かつ、以下の各項目を満たさなくてはならない。

(1) 16 才以降少なくとも 2 年以上日本国に滞在した経験を有する者。

(2) 学校教育法により定められた大学、または大学院における心理学専攻、教育心理学専攻、または心理学関連専攻の学科において、別表に掲げる科目を履修し、必要単位を修得し、卒業または修了した者、および、それと同等以上の学力を有すると認められた者。

なお、認定の詳細は社団法人日本心理学会の関連細則の定めるところによる。

右記の HP で各自確認のこと。 <http://www.psych.or.jp>

2) 履修のガイドライン

以下の表にある科目から、注(*)に従って 36 単位以上取得すること。

「認定心理士」を希望する編入生については、以前の所属大学等で取得した科目を本学の「認定心理士」関連科目に読み替えないこととしており、「認定心理士」取得に必要な科目を本学で新たに履修すること。

2. 「認定心理士(心理調査)」について

1) 資格の概要

「認定心理士」の上位資格に位置づけられ、認定心理士と同時に取得することが可能である。心理学の基本的知識及び技術をもとに実験・調査・観察等の研究ができることを公益社団法人日本心理学会が認める資格であり、認定心理士資格申請にかかわる科目に加え、認定心理士(心理調査)資格申請のための必修科目を修得することで資格が得られる。

2) 履修のガイドライン

『認定心理士(心理調査)』では、「認定心理士」の所定カリキュラムの必要単位取得に加えて、実験・調査・観察等の手法を用いた研究(2 課題;卒業論文を含む)を主体的に行い、その一連のプロセスを日本心理学会指定のレポート様式において成果報告し、資格申請および審査を受けるものである。

以下の表にある科目から、注(*)に従って履修すること。

『認定心理士』資格取得と『公認心理師』受験資格取得対応モデル

人間の行動や心理機能について、これまでの幾多の研究に基づいて培われてきた標準的知見を学修するとともに(専門教育における基礎科目の学修)、実験・調査・観察等の標準化された手法及び統計手法を用いて検証すること(心理学実験の学修)が心理学教育の基本的枠組みといえる。このデータの収集と分析という客観的かつ合理的な学問的探究のプロセスに専心して取り組むことにより、「事象を客観的にとらえて考察する技術」や「クリティカルシンキング(批判的思考)の技術」を醸成する。これら心理学の『基礎分野』で修得した知識と技術を土台として、医療・教育・福祉・司法・産業などの領域における臨床心理学的な支援や、実社会におけるさまざまな心理学的問題の研究に必要な知識と技能を学ぶための『応用分野』(専門教育における展開科目、応用心理調査実習、心理演習、心理実習、卒業論文などの演習・実習科目)の学修を積み上げることで、心理学の学びをいっそう深め、大学院進学や心理専門職に必要な心理学の基礎知識、実践的な技能の基礎を修得できる。

以上の学修の枠組みにおける心理系資格の位置づけとしては、主として、『基礎分野』の学修の成果に基づいて認定されるのが「認定心理士」資格である。また、『基礎分野』に加えて、『応用分野』の中でも、特に、実験や調査といった心理学研究の技法についての学修の成果に基づいて認定されるのが、「認定心理

士(心理調査)」資格である。さらに、『基礎分野』の学修の上に、臨床心理学的な知識と技能の学修を積み上げることで取得できるのが、国家資格である「公認心理師」資格であるが、この「公認心理師」資格は、大学において心理学その他の公認心理師となるために必要な科目として法令で定めるもの(以下「必要な科目」という。)を修め、卒業するだけでは取得できない点にも注意されたい。公認心理師試験の受験資格を得るためには、大学で必要な科目を修めて卒業した後、必要な科目を開講している大学院(修士課程)に進学する、あるいは国が指定する施設で2年以上、公認心理師法第2条第1号から第3号までに掲げる行為の業務に従事するなど、大学卒業後の学修や業務経験の積み上げに加え、国家試験で合格することが必要となる。そのためには、大学在学中から、大学院進学や指定施設での採用試験合格に向けた準備等、国家試験の受験と合格とを視野に入れた学業への真摯な取組が求められる。

なお、心理系大学院の入学試験では、英語の試験が課されることが多いため、心理系大学院志望者は、外国語科目の選択にあたって十分留意されたい。

2023 年度生用

【認定心理士】

法人の定める 科目領域		本学開講科目	単位数	履修要件		取得年次
基礎科目	a	心理学概論	心理学概論Ⅰ	2	4 単位 選択 必修 12 単位以上選択必修 左の単位を含み、 （選択科目は、 d から h の 5 領域のうち 3 領域以上でそれぞれが少なくとも 4 単位以上） 左の単位を含み、 36 単位以上選択必修	1～
			心理学概論Ⅱ* ¹	2		1～
			心理学	2		1～
	b	心理学研究法	心理学研究法	2		2～
			心理学統計法Ⅰ	2		1～
			心理学統計法Ⅱ* ^{1*2}	2		1～
	c	心理学 実験・実習	心理学実験Ⅰ* ^{3*4}	2		2～
			心理学実験Ⅱ* ^{1*3}	2		2～
			心理演習Ⅰ	1(2)* ⁵		3～
			心理演習Ⅱ	1(2)* ⁵		3～
心理実習			2(4)* ⁵	4		
選択科目	d	知覚心理学 ・学習心理学	知覚心理学(知覚・認知心理学)	2	2～	
			認知心理学(知覚・認知心理学)	2	2～	
			学習心理学(学習・言語心理学)	2	2～	
			言語心理学(学習・言語心理学)	2	2～	
			感情心理学(感情・人格心理学)	2	3～	
	e	生理心理学 ・比較心理学	神経心理学(神経・生理心理学)	2	2～	
			生理心理学(神経・生理心理学)	2	3～	
	f	教育・発達 心理学	教育心理学(教育・学校心理学)	2	1～	
			発達心理学Ⅰ	2	1～	
			発達心理学Ⅱ	2	1～	
			学校心理学(教育・学校心理学)	2	2～	
	g	臨床・人格 心理学	臨床心理学概論Ⅰ	2	2～	
			臨床心理学概論Ⅱ	2	2～	
			心理学的支援法	2	3～	
			人格心理学(感情・人格心理学)	2	3～	
			健康心理学(健康・医療心理学)	2	3～	
			医療心理学(健康・医療心理学)	2	3～	
			福祉心理学	2	3～	
			障害者・障害児心理学	2	3～	
			司法・犯罪心理学	2	3～	
			心理的アセスメント	2	2～	
			発達診断の理論と方法	2	2～	
			家族心理学(社会・集団・家族心理学)	2	1～	
			精神疾患とその治療Ⅰ・Ⅱ* ¹	2(4)* ⁵	2～	
			現代の精神保健の課題と支援Ⅰ・Ⅱ* ¹	2(4)* ⁵	2～	
	h	社会・産業 心理学	社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学)	2	1～	
			人間関係論	2	1～	
			産業・組織心理学	2	3～	
i.その他		卒業研究と論文	4(8)* ⁶	4		
		専門ゼミナール	4* ⁷	3～		
		心理学と心理的支援	2	1～		

【認定心理士(心理調査)】

法人の定める 科目領域		本学開講科目	単位数	履修要件	取得年次
心理調査	心理調査概論	心理調査概論	2	2 単位 必修	2～
	心理統計	心理学統計法Ⅱ ^{*1*2}	2	2 単位 必修	1～
	発展／応用研究(実習)	応用心理調査実習 ^{*8}	4	6 単位 必修	3～
		卒業研究と論文	4(8) ^{*6}		4

(注) *1 「Ⅱ」を標記している科目は、必ず「Ⅰ」を標記している科目を履修した後に受講すること。

*2 シラバスの都合上「心理学統計法Ⅱ」を必ず履修すること。

*3 「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」及び「応用心理調査実習」は本学カリキュラム系列において、専門科目表の「演習・実習科目」系列であり、時間数は「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」のⅠ・Ⅱそれぞれ 2 コマ連続開講(30 コマ) 2 単位である。

*4 「心理学実験Ⅰ」は受講定員(30 名以内)があり、応募者数が定員を超えた場合には選考を行う。

*5 この科目は、大学認定単位の半分が認定心理士のための単位となる。例えば「児童精神医学」は大学認定では 2 単位だが、日本心理学会では 1 単位までを認める。

*6 卒業論文は、大学認定では 8 単位だが、心理学に関わる研究テーマとすることで、日本心理学会では 4 単位までを認める。

*7 「専門ゼミナール」は 3 年次から、心理教員(4 名)の専門ゼミナールの中から、学生にとって興味・関心の高いものを一つ選択し、4 年次まで一貫して継続的に履修することが原則である。1 つのゼミナールに希望者が集中した場合は選考を行う。また認定心理士の申請においては、単年度分(4 単位)のみ申請可能である。

*8 3 名の教員が担当し(3 クラス編成)、3 クラス全体で定員 15 名以内(各クラス 5 名以内)とする。そして履修希望レポート課題及び成績評価により選考・クラス編成を行う。履修希望者は、公認心理師・認定心理士(福祉心理コース)ガイダンスに出席するとともに、履修希望レポート課題をポータルサイトで確認し、指定された期日までに教育支援担当に提出すること。